

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 ~6日	2月 ~13日	2月 ~20日	2月 ~27日	3月 ~6日	3月 ~13日	3月 ~20日	3月 ~27日	4月 ~3日	4月 ~10日	4月 ~17日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	12	4	10	8	11	7	12	13	17	19	18
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	14	5	7	15	11	12	3	11	9	21 (23)	16
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	1	0	1	1	1	1	3	2	1	2	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	3	1	4	4	6	6	8	5	1	8	7
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	2	6	1	1	3	4	2	0	5	2	3
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	1	3	3	0	1	1

\* ( )は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第15週(4月11日~4月17日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	5	結核	5	1	1	1			1	1	
三類	0	発生なし	0								
四類	1	重症熱性血小板減少症候群	1						1		
五類	16	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1					1			
		侵襲性インフルエンザ菌感染症	1							1	
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1							
		梅毒	13			1		12			
新型コロナウイルス感染症等感染症	7,230	新型コロナウイルス感染症	7,230	637	514	627	99	3,435	335	1,583	

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市  
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町  
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第15週に3,435件の報告があり、増加が続いています。広島県の病床シミュレーション(4月11日時点)では、このまま感染が拡大すると早ければ4月28日に病床使用率が50%(一般医療と両立可能な範囲での病床数)を超える可能性があるとして予想されています。また、より感染性が高いとされるBA.2系統への置き換わりが全国的に進んでいます。一人一人が感染対策を徹底し、感染拡大を防止することが大切です。

【参考】知事記者会見(令和4年4月12日)(広島県)  
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kishakaiken/gpc-20220412.html>

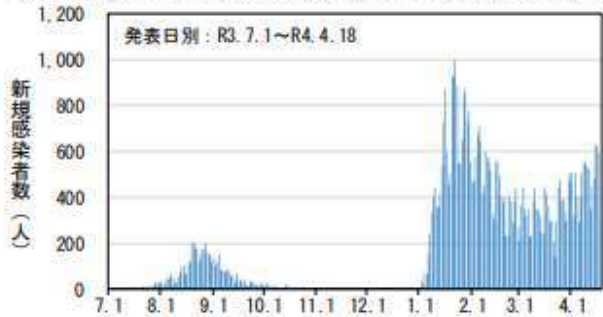
2 梅毒

12件の報告がありました。今年の累計は70件となり、過去4年の同時期平均(約23件)の3倍と非常に多い状況です。梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあるため、早期発見・早期治療が大切です。

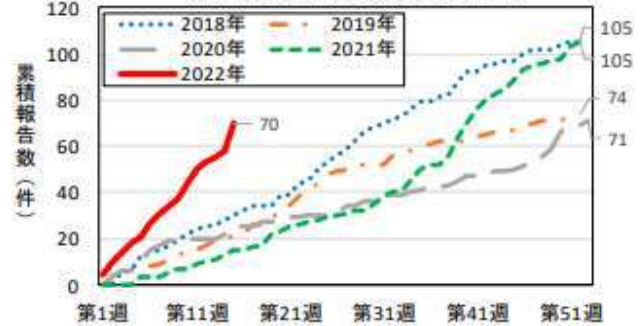
3 手足口病

定点当たり1.04人の報告があり、前週より増加しました。

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



梅毒の発生動向の推移(広島市)



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
フィレン	インフルエンザ	-	-	0.90		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.04	
小児科	咽頭結膜熱	2	0.08	0.28		眼科	RSウイルス感染症	8	0.33	0.31	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.29	1.72			急性出血性結膜炎	1	0.13	0.05	
	感染性胃腸炎	101	4.21	6.52	▲		流行性角結膜炎	2	0.25	0.80	
	水痘	4	0.17	0.18			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-
	手足口病	25	1.04	0.58	▲	無菌性髄膜炎		-	-	0.06	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.08		マイコプラズマ肺炎		1	0.14	0.11	
	突発性発しん	10	0.42	0.29		クラミジア肺炎(オウム病を除く)		-	-	-	
	ヘルパンギーナ	3	0.13	0.10		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.66		

急増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	□	□	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	3	90歳代
5	梅毒	12	70	20歳代・3人、30歳代・2人、40歳代・3人、50歳代・2人、60歳代・1人、70歳代・1人